特集Ⅱ

2019年中に発生した長万部町の交通事故を分析

ストップ・ザ・交通事故
～めざせ　安全で安心な北海道～

交通事故の多くは、脇見運転、居眠り運転、一時不停止など運転者のちょっとした不注意によって発生し、わずかな気の緩みが予期せぬ悲劇を生んでいます。そして、被害者になっても加害者になっても一瞬のうちに幸せな家庭を崩壊させてしまうのが交通事故です。

全国の交通事故死者数は、統計が始まった昭和23年以降最も少ない3，215人で昨年より317人減少し過去最少を更新しました。

北海道における交通事故死者数は昨年より11人多い152人で4年ぶりに増加に転じてしまいました。また、全国ワースト3位となり前年の8位から悪化となり残念な結果となってしまいました。

交通事故が減少したとは言え尊い命が失われている事に変わりありません、また、高齢者の道路歩行中の死亡事故が多く見受けられます。

悲惨な交通事故の犠牲者を一人でも減少させるため、飲酒運転は厳禁、スピードは控えめに、車間距離を十分にとり前方を確認し、ブレーキは早めに掛け衝突を回避するよう努めましょう。

今月号では、交通事故撲滅の願いを込めて、昨年一年間に私たちの町で発生した交通事故を分析してみました。

1人が死亡 13人が重軽傷

長万部町では、交通事故のほとんどが日中の通過車両によるものでした。昨年一年間に発生した交通事故は5件で、死者数1人、傷者数13人で前年に比べ件数3件、死者数1人、傷者数11人の増加となってしまいました。近年75歳以上のドライバーが加害者となる割合が年々増加傾向にあります。また、残念なことに平成27年4月から死亡事故ゼロ日数が、1，527日続いておりましたが、令和元年7月国道5号線で死亡事故が発生し道外の男性1人が犠牲となりました。

交通事故の多くは国道で

道路別の発生状況では国道5号線で2件、37号線、230号線、高速道路で1件づつ発生しています。

国道5号線では、乗用車がセンターラインを越え対向車との正面衝突による死亡事故が発生しております。比較的見通しの良い道路であることが、速度の出し過ぎや無理な追い越し運転の原因になっていると考えられます。居眠り運転などにより死亡事故につながりやすいと思われます。このような直線道路を運転する際は十分注意しましょう。

ハンドル操作とブレーキ操作が事故の原因に

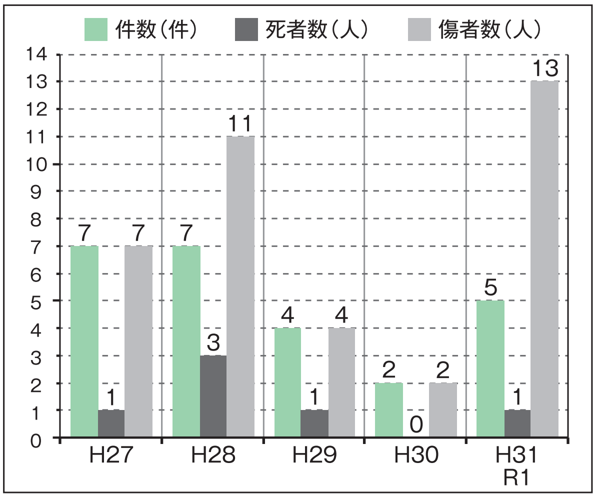
事故類型別の発生状況では正面衝突が3件、工作物衝突と、その他による事故が1件づつでした。

法令違反別の発生状況では前方不注意やハンドル操作とブレーキ操作が事故の原因となって、5件全てが安全運転義務違反により発生しています。

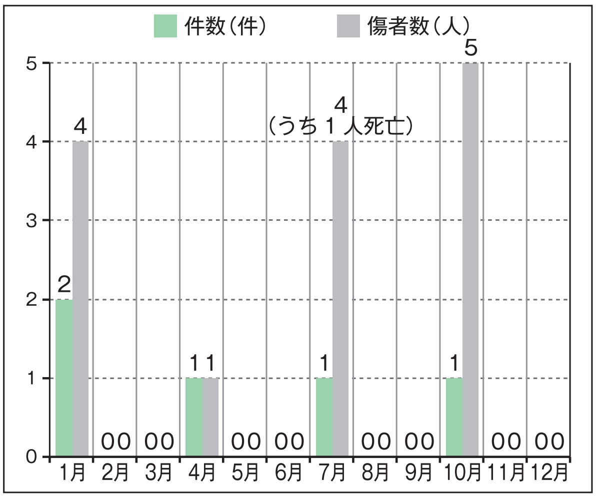
ちょっとした気の緩みや脇見運転は大きな事故に繋がり、あなたと相手の一生を台無しにしてしまいます。

車を運転するときは、心に余裕をもって速度を抑え、十分な車間距離をとり、適度な緊張感をもって運転しましょう。

年別町内発生交通事故の推移



月別町内発生交通事故の推移



交通事故をなくすには、何よりも町民一人ひとりの交通安全意識を高めることが大切です。

自分だけは大丈夫と思わず、交通ルールとマナーをしっかり守って事故のない社会を作りましょう。

道　路　別

■国　道
・５号線　［２件・９人］（うち１人死亡）
・３７号線　［１件・２人］
・２３０号線［１件・１人］
■高速道路　［１件・２人］

事故類型別

■車両相互
・工作物衝突［１件・２人］
・正面衝突　［３件・11人］（うち１人死亡）
・その他　［１件・１人］

法令違反別

■安全運転義務違反
・ハンドル操作［１件・２人］
・ブレーキ操作［２件・３人］
・前方不注意［２件・９人］（うち１人死亡）

通行目的別

■業　務　［１件・２人］
■帰　省　［１件・２人］
■観光・娯楽［２件・９人］（うち１人死亡）
■その他　［１件・１人］

［　］事故件数・傷者数

ゆとりを持った安全運転で

時間別の発生状況では５件中４件（80％）の事故が日中に発生しております。

曜日別では月・水・木・日曜日に事故が起きており、月曜日には死亡事故も発生しております。

通行目的別では業務や帰省、観光・娯楽で事故が発生しております。

目的は様々ですが、時間に余裕がないとスピードの出し過ぎや前方不注意などが多くなり、その結果、交通事故を起こす可能性が高くなります。運転する際には、体調を万全にし、時間的、精神的に余裕を持つことが大切です。

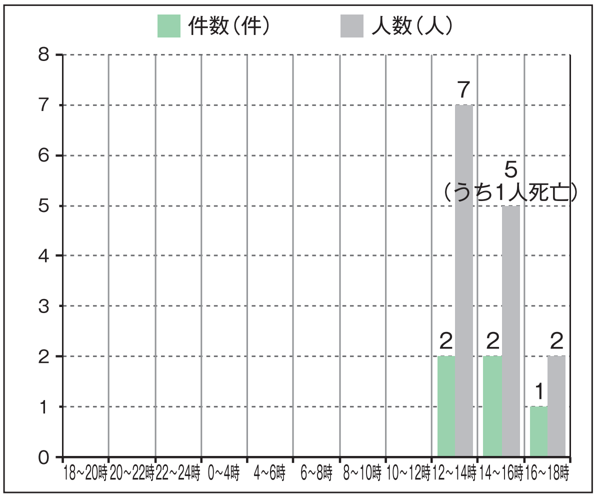
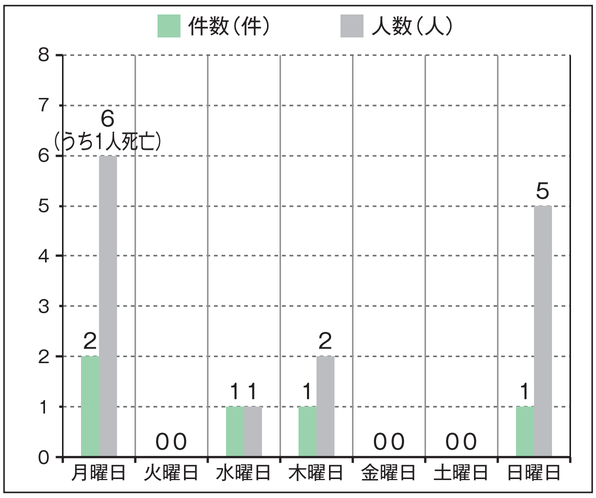
疲れたときにはこまめな休憩を

長時間の運転は、リラックスしているつもりでも、実は縮こまった姿勢になりがちです。そのため筋肉の緊張状態が続き肩こりや腰痛の原因にもなります。また、運転中は前方の標識から手元の機器類まで絶えず目を動かすため、ピントを合わせる眼の筋肉が疲れてきます。この疲れが蓄積し、全身の疲れに繋がります。これを防ぐために１～２時間おきにこまめな休憩を取り、運転席から降りて外の空気を吸いながら、軽めの体操などを行いましょう。

高齢者の事故が増えてます

全国的に交通事故による死者数は減少傾向にある一方で65歳以上の高齢者が占める割合は年々高くなっています。高齢ドライバーへの思いやりを持った運転や高齢歩行者を見かけたら減速するなど、高齢者の動きに対応できるような運転を心がけましょう。また、年齢を重ねるにつれて、安全運転に必要な記憶力や判断力などの認知機能は、低下していきます。運転に自信が無くなったり家族から「運転が心配」と言われるようになった場合は、運転免許証の自主返納を考えましょう。

時間別事故発生状況



曜日別事故発生状況